



TITLE:

幼児死亡と貧困

AUTHOR(S):

河上, 肇

CITATION:

河上, 肇. 幼児死亡と貧困. 經濟論叢 1916, 2(2): 305-308

ISSUE DATE:

1916-02

URL:

<https://doi.org/10.14989/126953>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

經濟論叢

號二第

卷二第

論說

●戸數割及戸別割ヲ論ズ

法學博士 神戸 正雄

●戦後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題ニ

講師 米田 庄太郎

●民族的自覺ト植民地土民ノ教育

助教授 山本 美越乃

研究

●不換紙幣ノ價格ニ就テ

法學博士 戸田 海市

●大藏省證券ノ割引歩合ニ就テ

法學士 三木 純吉

●保險學說ノ發展(二完)

法學士 小島 昌太郎

雜錄

●中田公直氏遺著「佐藤信淵ノ農政學說」

同志社大學教授 瀧 本 誠一

●米ノ生産費ニ就テ

助教授 河 田 嗣 郎

●商業道德ト時勢ノ變

法學博士 神 戸 正 雄

●家庭ニ關スル新統計調査例

教授 財 部 靜 治

●中歐經濟同盟說ニ就テ

法學博士 小 川 郷 太 郎

●幼兒死亡ト貧困

法學博士 河 上 肇

●米國ニ於ケル各國移民ノ消長

助教授 山 本 美 越 乃

●小國ノ將來

講師 高 田 保 馬

●紹介——祖國ヲ顧ミテ(河上博士著)孤立國(谷井法學士譯)蘇峰文選(徳富猪

一郎著)

幼兒死亡ト貧困

法學博士 河 上 肇

貧乏人が多イト云フコトハ現代社會ノ大病デアル。此病根ヲ除カネバ、何時マデ經ツテモ社會ノ各方面ニ絶間ナク種々ノ故障ガ起ル。其等ノ故障ヲバ患者タル社會民衆ガ自覺シテ苦痛ヲ訴フルニ至ル時ハ、其時其事ニ應ジテ其ガ所謂當面ノ時事問題ニ爲ル。而シテ其所謂時事問題ヲバ輕ク淺ク取扱ツテ之ガ應急ノ策ヲ講ズルニ止メ置クナラバ、其ハ畢竟膏藥療法ト謂フモノデ、差當リ一局部ノ故障ハ鎮ツテモ、直ニ復タ他ノ局部ニ故障ヲ起スコトニ爲ル。然ルニ此ノ如キ應急策ニ満足セズ、根本ノ病源ヲ尋ネテ根治策ヲ樹テヤウトスル時ハ、吾々ハ多クノ場合ニ其病根ハ貧困ニ在ルコトヲ發見スル。一見スレバ經濟問題トハ何等關涉ナキガ如ク思ハル、社會的ノ種々ノ故障モ、探リ探リテ其根本ニ到ル所ハ、思ヒ掛ケモナク其病源ガ貧困ニ在ルコトヲ發見スル場合ガ藏ニ少クナイ。

折角生レタ子供ガ其天壽ヲ全ヤセズシテ天死スト云フコトハ最も悲ムベキ人事ノ一デアル。此事ハ、嘗テ自己ノ愛兒ヲ喪ヒシ經驗又ハ喪ハントセシ經驗アル者ノ恐ク否認セザル所デアラウ。然ルニ其ノ幼兒ノ死亡ト云フコトモ亦、其原因ハ貧困ト極メテ密接ナ關係ヲ有スル。

從來育兒上ノ問題トシテ世人ノ注意ヲ惹ケル事柄ハ、母ガ家庭外ノ職業ニ従事スルト云フコ

ドデアル。母タル者ガ分婉間際マデ日々家庭外ニ出デテ勞働ニ從事シ、分婉後モ其ノ産ミ落シタ子供ニ自分ノ乳モ飲マシ得ズ、發育上最モ太切ナ時期ニ在ル者ヲ只打棄テテ日々工場ニ出勤スルト云フコトハ、育兒上誠ニ遺憾ナコトデアツテ、コレデハ幼兒ノ死亡率ノ多イノモ無理ハナイト云フヤウニ、吾々ハ考ヘテ居タノデアル。然ルニ近頃 Henry Horace Hibbs ノ公ニセシ一文*ニ據レバ此ノ如キ考ハ現在ノ事實ニ當嵌ラス様デアル。

米國べんじるノにあ州じよんすたうんニ於ケル兒童局 (Children's Bureau) ノ戸別訪問調査ノ結果**ニ依レバ、訪問セシ千四百六十三人ノ母ノ中僅ニ三・一%ダケノ者ガ一定ノ業務ニ從事スルコトニ依ツテ金ヲ儲ケテ居ルト云フガ(下宿人ナドヲ置イテ居ル者モ從業者トシテ計上ス)、幼兒ノ死亡率ハ次ノ如キ成績ヲ示シテ居ル。

職業ヲ有セル母ノ幼兒 一八・八・〇
職業ヲ有セザル母ノ幼兒 一一・七・六
之ニ依ツテ見レバ、一定ノ職業ニ從事スル母ノ

下ニ生レタ幼兒ハ其死亡率ガ大分多クナツテ居ル。故ニ此數字ノミヲ一見スル時ハ、母ガ一定ノ職業ニ從業スルコトハ明カニ育兒上ノ妨ゲニ爲ツテ居ルヤウニ思ハレルケレドモ、更ニ進ンデ父ノ所得別ニ依ル次ノ表ヲ見ルト、必シモサウデ無イコトガ分ル。

父ノ所得	死亡率
五二一弗以下	二六三・二
五二一弗—六二四弗	一六〇・二
六二五弗—七七九弗	一〇二・三
七八〇弗以上	九・三一

即チ父ノ年所得六百二十五弗以下ノ者ニアツテハ、職業ヲ有スル母ノ幼兒ノ方ガ、職業ヲ有セザル母ノ幼兒ヨリモ、其死亡率ハ多イノデアル。之ヲ見ルト、貧乏ナ家庭ニ在ツテハ、母ガ一定ノ職業ニ從事シテ、多少ナリトモ一家ノ所得ヲ補充スル方ガ却テ育兒上好成績ヲ生ズルコトガ分ル。但シ此じよんすたうんノ調査ハ、家庭内デ一定ノ仕事ヲシテ金ヲ儲ケツツアル者ヲモ、職業

* Quarterly Journal of Economics. Nov., 1915.
** U. S. Children's Bureau, Infant mortality : Johnstown, Pa. Washington, 1915.

ヲ有スル母ト云フ中ニ計上シタノデアルカラ、進ンデハ猶家庭外ニ於イテ職業ヲ有スル母ノ幼児死亡率如何ヲ見ル必要ガアル。

扱テ母タル者ガ工場其他家庭外ニ於ケル一定ノ場所ニ出テ職業ヲ有ツト云フコトガ、其幼児ノ死亡率ノ上ニ如何ナル影響ヲ及ボスモノナルヤト云フニ、之ニ就イテ好個ノ參考ト爲ルモノハ近頃英國バ―ミンガム及ビ米國まさちゅーせつ州ノふを―るりわー (Fall River) ニ於イテ行ハレシ調査ノ結果デアル。

ば―ミンガムノ調査ハ比較的最も多數ノ母ガ家庭外ニ於イテ働キツツアル聖すち―ふん及ビ聖じよ―じノ二區ニ限ラレタノデアルガ、其ニ依ルト一九〇八年ヨリ一九一〇年ニ至ル三箇年間、戸別訪問ヲ爲セシ母ノ數三千七百七十七人ノ中、千六百五十七人ダケノ者ハ家庭外ノ勞働ニ従事シツツアル。而シテ其幼児死亡率ハ一七三人ナルニ反シ、職業ヲ有セザル母ノ幼児死亡率ハ一七九人デアツテ、即チ職業ヲ有スル者ヨリモ有セザル者ノ幼児ノ方ガ、却テ其死亡率ガ

少シバカリ多イト云フコトニ爲ツテ居ル。

まさちゅーせつ州ふを―るりわーノ調査*モ亦略ボ同様ノ事實ヲ立證シタモノデアツテ、現ニ其報告書ノ結論ノ一句ニハ no marked differences are discoverable between the children of mothers at home and mothers at work outside the home ト述ベテアル。

畢竟スルニ、母ガ家庭外ニ出テ働クカ働カヌカ根本ノ問題デハナクテ、家庭ガ貧シイカ裕カナカト云フコトガ根本ノ問題ナノデアル。

前掲べんしるゐにあ州じよんすたうンニ於ケル幼児死亡率ノ調査ノ際、其死亡率ト父ノ所得トノ關係ヲ調査セシニ次ノ如キ結果ヲ得タ。

所得年	父	合計	
		出產數	死亡率
五二一弗以下	二一九	一、四三一	一三・七
五二一弗―六二四弗	一六五	二五五	二五・七
六二五弗―八九九弗	三八五	一五七	一五・七
九〇〇弗―一、一九九弗	一三八	一二一	一〇・一
一二〇〇弗以上	四八	一〇一	四・四

即チ年所得五百二十一弗以下ニ過ギザル父ヲ有

* U. S. Bureau of Labour, Report on Condition of Women and Child Wage-Earners in the U. S. vol XIII, Part 2.

スル幼兒ノ死亡率ハ、年所得六百二十五弗以上九百弗以下ノ父ヲ有スル幼兒ノ死亡率ノ二倍以上ニシテ、年所得千二百弗以上ノ父ヲ有スル幼兒ノ死亡率ノ三倍以上デアル。

猶貧シキ家庭ニ在ツテハ、母ガ一定ノ職業ニ従事シテ多少ナリトモ金儲ヲスルコトガ、幼兒ノ養育上好結果ヲ生ズルコトハ、次ノ二表ヲ見ルト最モ明白デアル。

父ノ所得	職業ヲ有スル母ノ幼兒ノ死亡率	職業ヲ有セザル母ノ幼兒ノ死亡率
年所得五二弗以下	二四八	二二三
五二弗—六二四弗	一五一	一六一
六二五弗—七七九弗	一二七	一〇二
七八〇弗以上	一六七	九三
失業父ハ一週ノ所得一磅以下	二〇八	一九五
一週所得一磅以上	一一八	一五二

之ニ依ツテ見レバ父ノ所得ガ或程度以上ニ達スレバ、母ハ職業ヲ有タヌ方ガ育兒上好都合デア
ルガ、若シ父ノ所得ガ或程度以下デアレバ、母ハ
職業ヲ有ツテ多少ノ所得ヲ儲ケル方ガ好都合ナ
ノデアル。母ガ家庭外ニ出テ働クト云フコト其
レ自身ハ何モ育兒上好都合デアラウ筈ハナイガ

只其ノ齋ス所ノ金錢ガ好結果ヲ生ズルニ至ルノ
デアル。

參考ノ爲如何ナル階級ノ母ガ最モ多ク家庭外ニ出テ働クヤト見
ルニ、前掲じよんすたうんニ於ケル調査ノ結果ハ次ノ如クシ。

父ノ年所得	一定ノ職業ヲ有 スル母ノ割合	父ノ年所得	一定ノ職業ヲ有 スル母ノ割合
五二一弗以下	四・八分	九〇〇弗—一二九九弗	〇・九分
五二一弗—六二四弗	三・三	一二〇〇弗以上	〇・二
六二五弗—八九九弗	二・二		

以上ノ如キ事實ニ本キひつぶすハ論ヲ結ンデ
We are, thus, forced to conclude that the
fundamental economic and industrial factor of
infant mortality is low wages ト述ンテ居ル。ケ
ニ貧困ハ社會百病ノ根源デアル。